

令和元年度 第2回木曾川水系流域委員会 開催後の訂正箇所

資料－4 新丸山ダム建設事業説明資料

頁	目次	委員会時	訂正後
6	1)事業の必要性等 (1)事業を巡る社会 経済情勢等の変化 ③過去の主な災害 実績(渇水)	木曾川水系では、渇水による取水制限が頻繁に行われており、平成元年～令和元年までの31年間に19回の取水制限が行われている。	木曾川水系では、渇水による取水制限が頻繁に行われており、平成元年～令和元年までの 31年間中、19年 で取水制限が行われている。
16	費用対効果分析	■費用対効果分析(今回評価) 全体事業 総費用C 2,730億円 建設費 2,659億円 維持管理費 71億円 残事業 総費用C 860億円 建設費 789億円 維持管理費 71億円	■費用対効果分析(今回評価) 全体事業 総費用C 2,727 億円 建設費 2,659億円 維持管理費 68 億円 残事業 総費用C 857 億円 建設費 789億円 維持管理費 68 億円
		■感度分析 残事業(B/C) 残事業費(+10%～-10%) 10.2～12.0 資産(-10%～+10%) 10.1～12.1	■感度分析 残事業(B/C) 残事業費(+10%～-10%) 10.2～ 12.1 資産(-10%～+10%) 10.1～ 12.0